

業 務

1 環境総務班

環境総務班は、前述の予算等経理・施設管理・他機関との連絡調整等の業務に加え、環境保全に関する啓発イベント、各世代を対象とした小・中学校から自治会等の依頼による環境学習会(以下、出前講座)に取り組んでいます。

地域住民の皆様とは、当センター緑地の落葉やカブトムシ・クワガタムシ飼育講座で使用した飼育床などで腐葉土作ったり、近隣の保育園の子ども達とのゴーヤやヘチマによる緑のカーテンの植付けや収穫祭を実施したりして、楽しい環境保全活動を協働で行っています。

当センターが実施した環境学習事業の過去3年間の実績を表1に示します。また、平成30年度に実施した環境学習等の開催状況は以下のとおりです。

表1 主催事業及び支援事業の参加人数(過去3年間の推移)

事業名	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
夏休み子ども環境教室			45人	12回	137人	20回
ミニ科学体感フェア			421人	6回	866人	5回
市民環境科学セミナー	429人	52回	205人	31回	196人	42回
水生生物ウォッチング					48人	2回
種の保存と生物多様性講座			184人	4回	325人	6回
親子環境探検隊	33人	1回	105人	3回	50人	3回
主催事業の計	462人	53回	960人	56回	1,622人	78回
支援事業(出前講座)の計	2,543人	40回	1,645人	56回	1,967人	45回
合 計	3,005人	93回	2,605人	112回	3,589人	123回

(1) 主催事業

平成30年度は、親子環境探検隊を除く全ての事業で昨年度を上回り、参加者アンケート結果でも良好な評価(良かった100%)をいただいております。今後とも講座内容及び広報内容などのさらなる充実に努めます。

ア 親子環境探検隊

環境保全に対する意識の形成には、子どもの頃からの自然体験や家庭での取り組みが重要であることから、自然とのふれあいを通し親子で一緒に人と自然の共生や環境保全などについて考え学べる場として「親子環境探検隊」を実施しています。平成30年度は、外部講師で4回計画をしましたが第1回が中止になり3回の実施となりました。

第1回親子環境探検隊 ～江津湖水生生物ウォッチング～【雨天中止】

親子で自然にふれあいながら、江津湖にすむ小さな水生生物（カゲロウの幼虫など）の観察を通して生態系の多様性を実感し、指標生物を観測することによる水質評価を学び、熊本の豊かな水資源をとおして“人と自然の共生”についての学びを計画していましたが悪天候のため中止しました。

第2回親子環境探検隊 ～立田山の野鳥観察～

開催場所の立田山は、本市市街地の東に位置する里山で多くの市民に散策やトレッキングの場所として親しまれています。平成30年度は、「秋の立田山の鳥」をテーマに親子と一緒に立田山の自然にふれあいながら野鳥を観察し、「人と自然との共生」について学び考えました。

初めての立田山での観察会でしたが、うっそうと茂る高木のため、残念ながら姿を確認できた鳥は少なかったのですが、木々の間を飛び回る鳥の声を聞きながら落ち葉をふみながらの探索は秋の気配を感じる観察会でした。

第3回親子環境探検隊 ～金峰山の自然観察会～

開催場所の金峰山は、本市を代表する西に位置する里山で、標高665mの山頂からの眺望は素晴らしく、熊本市街をはじめ有明海や雲仙、阿蘇、九州山地、天草の島々など広大な景色を一望できます。

平成30年度は、11月の晩秋の里山を探索し、足跡や糞などから金峰山に棲んでいる生き物について学び、草木や実を観察して里山の役割や人と自然の共生について親子で学び考えました。散策路には、イノシシが害虫を落とすために泥を浴びたヌタ場やそのあと木に体を擦り付けた痕跡などが見つかりました。

また、途中では赤く熟したムベの果実を見つけ参加者で食べてみました。種の周りに付着する甘い果肉を口の中で上手に分けなければなりません。皆さん初めての経験のようで少し戸惑っていました。

第4回親子環境探検隊 ～上江津湖の野鳥観察会～

市街地にありながら自然の宝石箱といわれ、環境省の「平成の名水百選」にも選定されている水辺環境豊かな江津湖で水鳥の観察を行いました。

カワセミを含む多種類の野鳥が観察され、生物多様性について親子で学び考えました。

今回は、小雨の中の開催となりましたが、渡り鳥を含めて33種の野鳥を観察できました。残念ながら絶滅危惧種であるクロツラヘラサギを観察することができませんでした。

イ 子ども環境科学教室

小学校の夏休み期間、環境と科学に関連した実験・体験を数多く盛り込んだプログラムを提供しています。平日の曜日ごとに異なるテーマで2週程度開催していますが、平成30年度は、局主管課の外部講師の活用により、週5日の午前・午後の20回開催でき参加者も昨年度の3倍になりました。

対象：小学生4～6年

期間：夏休み 公立小学校の夏休み初日から2週間（平日）午前・午後

月曜日：ストローがかわいい楽器に

水曜日：天気の仕事

水曜日：不思議な光、紫外線

木曜日：プラスチックの見分け名人になろう

金曜日：地球環境とエネルギーの関係

ウ 市民環境科学セミナー

当センターにおいて、市民の皆様には熊本市の環境や環境を保全する取組みについて気軽に学んでいただくために、体験型の環境学習講座を開催しています。親子での参加が可能です。

エ ミニ科学体感フェア

環境教育・学習の拠点施設として、当センターの機能や調査・研究、環境保全と保健衛生に関する理解を深めてもらうため、施設を一部開放し科学実験の体験を通して、子供から大人まで広く科学の楽しさや不思議さを体感していただいています。

平成30年度は、ブンブンゴマ・プラバン・ペットボトル飛行体・空気砲などのリサイクル工作系を実施しました。加えて、調査・研究を担当する職員によるアルギン酸ナトリウムのゲル化を応用したぷよぷよのブースを設置しました。平成28年度から共催している熊本県・熊本市科学展との相乗効果により来場者が増加しています。

オ 水生生物ウォッチング

平成28年度をもって中止されていた当該講座を、平成30年度は熊本市の生物多様性のイベント『いきものフェアくまもと2018』の参加事業の一つとして、熊本市動植物園にて実施しました。

カ 種の保存と生物多様性講座

平成25年度から、夏休み前の7月に「カブトムシ・クワガタ飼育講座」として開催しています。平成30年度は4回開催し、190名の参加がありました。加えて、『いきものフェアくまもと2018』で「カブトムシ・クワガタ」に関する講座を2回開催し135名の参加がありました。

(2) 支援事業

小・中学校・PTA・子ども会・公民館・福祉施設・NPO法人など各種団体からの依頼により、学校や地域公民館等に出向いて出前講座を開催しています。

当センターの出前講座は、体験型として実験・野外体験・工作を盛り込むなど楽しく学べる講座を提供しています。

平成30年度は、昨年度と比較し出前講座の依頼件数は下回っていましたが、1件当たりの参加人数が多かったため参加人数の合計は増加しています。また、小・中学校の総合学習の時間での依頼が多かったのが特徴的でした。

人気の「出前講座ベスト4」を表2に示します。

1位は、紫外線に関する学習ふまえ、紫外線によって色が変わる「紫外線とUVビーズストラップ作り」、小学校低学年から大人まで幅広い受講者に対応できるようプログラムのバリエーションを用意しています。

2位は、「リサイクル工作」です。講座の所要時間による制限や人数、年齢層などによりリサイクルする材料と工作内容を選択します。これにランク外の紙を使ったリサイクル工作も加えると合計14回の開催になります。この様にリサイクル工作関連の人気が高い理由としては、工作の作品で遊んだり・飾ったり・使ったりなど日常的にも活用できるためと考えられます。

3位の「水生生物観察」は、楽しい水遊びの側面を併せ持つことから依頼が多かったと考えられます。観察後のまとめで生物多様性の現状と必要性について説明しています。

3位までは昨年度と同じ順位でしたが、平成30度は「牛乳パックのリサイクル紙漉き」が4位に入りました。4位以外にも草木染・新聞紙エコバック・熊本の水資源など合計11種の講座を実施しました。

今後とも、提供できるプログラムのテーマを系統的に再編成し、楽しく魅力的な内容にすること共に事業の広報活動にも努めてまいります。

表2 出前講座ベスト4

順位	講座名	回数
1	紫外線とUVビーズストラップ作り	16回
2	リサイクル工作	6回
3	水生生物観察	6回
4	牛乳パックのリサイクル紙漉き	4回

イベント、出前講座及び自主開催講座の様子



緑のカーテン植え付け



緑のカーテン収穫祭



カブトムシ・クワガタムシ飼育講座



クリスマスリース作り



いきものフェア 水生生物観察



夏休み教室 プラスチック見分け方



夏休み教室 天気の仕事み



夏休み教室 地球環境とエネルギー



夏休み教室 ストローが楽器に



夏休み教室 不思議な光、紫外線



親子環境探検隊 立田山の野鳥観察



親子環境探検隊 金峰山の自然観察



親子環境探検隊 上江津湖の野鳥観察

ミニ科学体感フェアの様子



ぶんぶんゴマを作り



ぷよぷよを作って遊ぼう



各種展示コーナー



光通信体験コーナー



プラバン作り



自作空気砲でのあて